

昭和五年十月二十日

東京英綿製作所
社長 花沢勘四郎 殿

東京英綿製作所 役員
芳功組合代表 者 芳八十八

別記

回答書

昭和五年十月二十日付書面ヲ以テ御申出テ相成候件ニ付テハ 慎重考慮致シ以テ夫
不採ノ所極ニテ中道誠意要求ニ應ズル事慮ハ久候
迄而者工場ハ已ニ今日迄ノ状態ヲ以テシテ之經營頗ル困難ニ陥リ持續ノ見込無上
ニ付テ今日限りヲ以テ閉鎖致スルノ候事爰ニ併テ通告矣也

合名 東京英綿製作所
代表者 花沢勘四郎

粉水能ヲ 花外要求者一同 殿

別記

聲明書

私達東京英綿製作所の役員等は一日(即ち)八十五名(女)五十五名此の食料として三
十五名差引か此残る六十名と二十名とに分けて各々給着物一枚を着ることも出来ず
い法能を我慢して来ましたが全町民諸君よ今や業不振の事候は日に日に高まりつゝ、其
程起りつゝ、ある日不見知を資本家地主の政府は救はんとはせずイナ生さんお初め
斗争に對しては國家権力である。
警察を全動員して狂暴行を彈圧を下して居る。此の生地の境に於ては全無産階級は決
然の覚悟を斗争を得て居る。現下洋火三千万の女軍大島製糖の五百名の軍兵は死を決
して戦ふの意を以て斗争の勝利は只工場労働者及び勝利をなくしては存くであらう
而してこの斗争は斗争の裏面には全團に二百人の死者を居る事を忘れては存らぬ
然るに工場主花沢勘四郎は突然二十三日工場閉鎖を断行して来た。吾々五十名の後
輩員を以て工場主の遺体の中へ投げ出さうとして来た
利達には矢張り得ず生人の死にストライキを大行した次第です私達も数ヶ月の失業者
と存るとも全町民諸君と共に苦しい生活を續ける事に存りて私達も如何なる
弾圧があらうとも最後迄戦ふ事を誓ひてありませう
町民諸君は利達の血が出る程の叫びと斗争に對して絶大なる御援助下さらん
事を御願ひする。同時に私達の多額の賞格を表明するものごありませう
一九三〇、一〇、二十三日

関東合同労働組合
南星五支部
東京英綿製作所 代表部